
魔法少女リリカルなのは～転生者達の戦い～

鬼畜な人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは～転生者達の戦い～

【Nコード】

N0037BA

【作者名】

鬼畜な人

【あらすじ】

どうしてこうなった？何故か俺は面白い事ないかな・・・って思ってたんだ

神に殺された　そして転生者達の戦いに巻き込まれた　つまりそういうことだ

シスコンが歩む道とは・・・（高町家のあの人はまったく関係ありません）

正直言っちゃうと　今年最後なので無印は半分ぐらい書き上げ・・・
れたら

書き上げます 駄文ですが

正直三人称視点は苦手なので一人称が多いですがよろしく願います

目指せ！100万PV！

第一話 始まり始まり（前書き）

はい 作者です

結構まじめに書いたつもりです

駄文を見たくない方はブラウザバックしてくださいね！

第一話 始まり始まり

俺は柴崎神治 普通の高校生だ

まあ、それはさっきまでの話だけだな

〈回想〉

「やることねーなあ・・・面白い事おこんねーかな・・・」

毎日、学校行つて 家に帰ったらすぐ自分の部屋で

小説サイトや某動画サイトを巡回している

日常だが・・・平凡すぎてつまらないと思う時もある

まあその時言つた言葉が問題だったのかな

「もしも神様がいたらな・・・俺に面白い事をさせてくれ！」

そしたら声が聞こえてきた・・・

自分が考えてもいないのに頭の中から

《汝の願い、聞きとげた まあ我も暇をしてたところでな
面白い事させてやるからさっさと 死 ね》

「えっ？」

そう思つた瞬間だった

「キキッー!!!」

ぐじゃっ

聞きたくない音が走つた

何が・・・起こつたんだ・・・？

隣で俺がトラックに押しつぶされている

かなりスプラッターな光景だ
いつもの俺なら卒倒してるだろうな

現に今 吐きそうになっているのだから

「すぐく吐き気がするのに、吐けないのは何でだ!？」

そして何故俺がトラックに押しつぶされている!？」

また謎の声が聞こえてきた

《ふむ、混乱してるようだな 自分で望んで来たと言うのに》

はい?面白い事を望みと取りやがったのか・・・こいつ

《神に向かつてこいつか・・・まあ我の存在を知らないんだからし
ようがないか》

か・・・み?どういうことだ?まずこの頭?に聞こえてくる声は何だ?

考えてもしようがないので 頭の中に聞こえてくる声に

質問してみることにした

(俺は・・・死んだのか?)

相手の返答を待つ

《自らここに来る事を望んで何を言う》

面白い事を望んでいると思ってここにつれてきたのか・・・

ん?ようするにこいつが殺したのか!俺を!

《そう言うな 我も暇なのだから面白いゲームに

参加させてやるうじゃないか》

ゲーム・・・?

《まあそうだな 転生者どうしの争いと言った所か》

転生?つまりどういうことだ?輪廻転生じゃなく

転生なのか?二次小説とかでよくある前世の記憶を持ったまま

転生ってやつか?・・・面白そうだな

ん?争いつていったか・・・?

《殺し合いだ しなくてもいいが優勝商品は

神の座だ 我もちよつと疲れてな 休憩がしたいのだよ

まあ結局巻き込まれると思うがな 最後の一人までなのだからな

ちなみに転生は拒否できないぞ 強制だからな》

殺し合い・・・だ・・・と？

そんな事できるわけが・・・

《どんなことを言っただって他の奴は了承したんだ（強制だがな）

しょうがないだろう だからどうせ巻き込まれるって言っただろう》

ついでに言うが特典はあるのか？

《ふむ 特典は最初一つだけだが 転生者を殺したら

あげるぞ ちなみに最大は三つまでだ

・・・ニコポなんて要求した馬鹿がいたがな》

・・・殺し合いにニコポなんて持ってたら戦えず真っ先に死にそうだな

《ちなみにリリカルなのはの世界だ》

なん・・・だ・・・と!？

俺の大好きなアニメじゃないか！

・・・ん・・・じゃあ 俺も原作介入することになるんだな・・・

《後言っておくがお前が住んでた世界の500年前に分岐した世界だよ》

え？IFの世界か・・・イレギュラーとかがいっぱいいるんだろうな・・・

それと特典か・・・どうしようかな

Fateのヘラクレスの力にしようかな！そうしよう！

《ゴットハンドは無理だぞ お前は何回も死を覆してないからな》

まじかー・・・

あれ でも戦闘技術とかは・・・

《ないぞ 自力で訓練しろ

じゃあ行ってもらうぞ せいぜい我を楽しませてくれよ》

床に突然穴ができ そのまま俺は落ちて行き 意識を手放した

く回想終了く

まあこんなわけだ

今真っ暗で息苦しい

なんか声が聞こえる なんの話をしているんだろう

「 ! !も ちょ よ!」

ん？

なんか頭が痛いぞ

締め付けられて・・・痛い痛い痛い

「オギヤアアアアアア（え？赤ちゃんから？マジで？）」

第一話 始まり始まり（後書き）

作者「……」

神治「おい作者 また新作始めやがったな!？」

作者「……」

神治「一様全部修正しろよ？そして完走しろ」

作者「……」

神治「なんかしゃべれええええええええええ!!!!」

作者「すいませんでしたっ! すいませんでしたっ!」

第二話・・・あれ？（前書き）

どうしてこうなった？

・・・うーむ

第二話・・・あれ？

やあ 柴崎神治だ

現在2歳だ

2年前は本当に大変だった！

いきなり赤ちゃんになって驚いた
それだけは言っておこう

そしてすごく母乳を飲むとき恥ずかしかった

《ふむ 新しい生活を楽しんでるようだな》

貴様は、神！？

《ルールを教えるのを忘れていてな
お前の場所を探すのに苦労したぞ》

ルー・・・ル？

《まあ、記憶にルールを刷り込んで置くから勝手に見とけて
いつか見なかったら死ぬと思え》

・・・痛っ痛い痛いってええええええええええ

頭がめちゃくちゃガンガンする

1分ぐらいしてようやくおさまった・・・

ふむ・・・これがルールか

ルールその1

結界を張って戦え 被害が出たら我が勝手に口座から
金引いて修理するからな

・・・あつれー？神様っていい人？・・・いやめんどくさいだけか

ルールその2

転生者とばれるな

ちなみにばれたら記憶破壊を行う

まじかー

ルールその3

我にゲームから退場したいといえば人生から退場させてやる

・・・ええー

以下略

まあこんなところだ

てか・・・なんで海鳴市なんだ・・・

神が仕組んだのか！？そうなのか！？

やっぱり強制なのか！？運命なのか！？

・・・そっういや転生者は何人いるんだろうか・・・

後名前は前世と同じだ 多分・・・神が仕組んだのだろう

それから何事も？なく3年経過

それと良い事があつた！

妹が生まれたあああああ すんげーかわいい！

妹の名前は水都^{みと}だ うん 良い名前だ！

・・・悪い知らせは 親が行方不明だ 妹が生まれてから消えた

まあいいや！妹さえ可愛ければ！

第二話・・・あれ？（後書き）

主人公がシスコンになってしまった・・・

第三話 動き出す物語（前書き）

あーあー何も聞こえないー

そろそろ無印開始です

第三話 動き出す物語

やあ またあそ

《よう 久しぶりだな》

「またお前か」

《お前とは何だお前とは 神（様）と呼べ！》

いつのまにか神が毎日のように来るようになった
すぐくうつとしい・・・

《うつとしいとは何だ！うつとしいとは！》

「いやさ・・・うつとしいものはうつとしいんだよ・・・」

「お兄ちゃん・・・誰と話してるのお？」

「いやなんでもないよ！ああ可愛いなあ可愛いなあ」

おれは水都の頭を撫でる

「お兄ちゃん！恥ずかしいよ／＼」

《すごいシスコンっぷりだな！》

「誰がシスコンだあああああああああ！・・・」

「お兄ちゃん・・・怖い・・・」

「ああ、ごめんな・・・怖くない怖くない」

《・・・・・・・・》

こんな感じで神はすぐ帰っていく

何故だろうか・・・

てか他の転生者のサポートしないでいいんだろ
うか
てか俺神の名前しらねえええええ

「じゃあ寝ようか お休みね 水都」

「お休み お兄ちゃん」

まあこんな感じで毎日が過ぎている
結構楽しい日々だ

前世とは大違いだな

・・・あれ 何か忘れてるような・・・

??? side

「役者は整った 後は我が手の平を踊るだけ さあ
始めようじゃないか プロジェクト・運命 を」

世界の異常者が生まれ 物語は大きく壊れ始める

??? side out

あ！思い出した！これバトルロワイヤルなんだっけ！

・・・思い出さなきゃよかった

ん・・・それじゃあ今なのは5歳だよな・・・

・・・もう誰かが介入を始めてそうだな

さて 俺はどうしようか

まあ！水都が可愛ければ問題ないな！うん！

《こいつ・・・シスコンか・・・妹が可愛いからって
問題ないって・・・重病だ・・・》

神は 神治のいないところでは 神治を完全にシスコン扱いだった
しょうがないよね！

「ん・・・今なんか聞こえたような・・・気のせいかな？」

《怖っ・・・神が怖がっちゃ駄目だな さてと

他の転生者でもサポートにいくかな》

神の口調が結構変わったのは神治とかかわり始めてからだが
完全に本人は自覚をしていない
口調変わってるところとか

「どうしてこうなった」

状況を簡単に説明する

1 スーパーに買いものにでかけた

2 公園で男に絡まれている女の子を見つけた

3 「おいやめろ」と一声掛けたが「MOBのくせに生意気なんだよ！」と言われた

4 あれもしかしてこいつ転生者？

5 「とりあえず・・・ボコるか」 今ここ

「俺に勝てると思ってんのか？」
とちんぴら

「女の子が困ってるんだから助けるに決まってるだろう」
と俺

「ふえええ？／／」
と女の子

ん？今顔を赤くしたか？気のせいだ きつと

ここからは音声のみでお楽しみください

ボコッガスツドカガスツドゴッ
バガツドスツガガツツドンッ
バンバンドッガガツドスツ

これぐらいやればいいだろう

「グハアッ」

とちんぴら

「やりすぎたか・・・？体中から血を・・・あれ・・・？
あの女の子はどこだ？」

「ふええん・・・うええん・・・うええん」

「・・・やっぱりやりすぎだったか・・・
とりあえず病院を・・・って こいつどうにかしないと！

「名前は何かな？」

「うええん・・・なま・・・え？なのはなの・・・」

「俺の名前は柴崎神治だよ

そっうえばさっきなんで男に絡まれていたの？」

「なのは俺の嫁とかいつてたの・・・怖かったよ・・・」

あーやつぱオリ主ハーレムとか
きどってるやつか・・・ああいうやつらは駆逐しないとな！

止めは・・・ここじゃ無理だよなー

「もう大丈夫だよ あの手は・・・うん もうこないとと思うよ？」

「そう・・・なの？」

「そういえば・・・さっきなんでないてたの？」

「ないてない！お父さんが・・・大怪我しちゃって・・・かまってる人いなくて・・・
ひとりぼっちで・・・」

「もう大丈夫だよ 今度遊んでやるよ」

・・・俺の服で涙拭くな

まあ仕方ないか

・・・あれ？なのは顔が赤い気が・・・気のせいだよな！うん

この光景を見てるものが居た

神だ

《・・・なんだかんだでフラグ建ててる気がするんだが気のせいなのかな・・・》

まあそんなこんなで1年経過しちゃったよ

・・・あれ何で俺私立聖祥大附属小学校に入学してんだ！？

運命なのか・・・逃れられないのだろうか

おっ友達イベントはっせ・・・あれえ？

神埼とか言う奴が絡んで・・・ええ！？

なのはのセリフとりやがった！・・・あれこの場合

バニングスと月村となのはの関係どうなんだ！？

・・・でもここで友達ならなかったら完全にストーリー崩壊だから
世界の意味がなんとかするのかな？

まあいいや！

1年生の勉強なんて正直どうでもいいから寝よう

「ZZZZZZZZZZ」

「柴崎くーん？起きてー？ねー？」

先生が困りはてていた

第三話 動き出す物語（後書き）

・・・1年生の勉強だから寝ても仕方ないよね！

無印 開始時の設定

名前 柴崎神治

年齢 9歳（原作開始時）

身長（原作開始時） 142cm

容姿 黒髪のただのイケメン 短髪

他のアニメのキャラで言うところのISの一夏に似ている
基本的にGパンにTシャツ一枚

能力 Fateのヘラクレスの力（ゴットハンドは使えない）

1tぐらいのものなら両手で持てる（まだ片手では上げられない
リミッターのようなものがかかっている）

体力は・・・100km走ったら疲れ始めるぐらい

魔力 AA

デバイス 氷霧 バリアジャケットは迷彩服

ショットガンとグレネードランチャーがくつついたような感じ

SPASにグレランをつけたようなものと思ってくれればいい

広域魔弾拡散型 と柴崎はよんでいる

妹が可愛いから守りたい ただのシスコン

名前 柴崎水都

年齢 6歳（原作開始時）

身長（原作開始時） 113cm

容姿 水色の髪に青眼 ちよつと髪は長い

ちなみにお気に入りの服は白のワンピース

魔力 ？

自分のお兄ちゃんは何でもできると勘違いしている

第四話 デバ・・・イス？（前書き）

ついに無印開始一話前！

完走できるのだろうか

第四話 デバ・・・イス？

やあ またあつたな

柴崎神治d

《よう そろそろ殺し合いが始まるから デバイス渡しに来てやったぞ！》

「おい神、俺に挨拶させろ！」

《かたいこと言うな》

「えー」

《まあ これがお前のデバイスだ 受け取れ》

「あいあいつとっ！？」

神が受け取れと言ったその時

デバイス？っぽいのが突如目の前に現れて
マジでびびった

「いきなり目の前に出すなよ！」

《知らん》

「ひでえ・・・」

《ちなみにデバイスの名前は氷霧^{ひょうむ}だ》

「おう ありがたく受け取ったぞ」

《我は他の転生者にデバイス渡して来る 説明？ そのデバイスに聞け》

そのまま目の前の白い光は消えた

「・・・ペンダント型のデバイスか」

『マスター？聞こえますでしょうか』

「！？いきなり喋るな！ゲホッゲホッ」

ペンダントがいきなり喋り掛けてきたせいでむせた

「・・・ん？そういや魔力量ってどれくらいあるんだ？

まあどうせそんなにないんだろうけ・・・『AAですよ マスター』

「はあっ！？ちょっと多すぎじゃないか？それは」

まあ 魔力量は多くてもこしたことはないんだけど・・・

あ、それとだ 神埼とか言う奴が学校でなのはに絡み始めた
完全に虫を見るような目で見てたけどな！

でも神埼は「恥ずかしいんだろう！」

とか言ってた どんだけ惚れてると勘違いしてるんだ？こいつは

とりあえずバニングスと月村となのはが友達になったから 安心だな
てかやつぱり神埼って転生者なのか？原作に絡み始めたら真っ先に
殺しても・・・

「お兄ちゃんどうしたの？」

「いいや なんでもないよ 水都」

妹が可愛いからよしとしよう

まあそんなこんなで2年たった

ついに原作が始まる 殺し合いと一緒に

・・・とりあえずフェイト側につくか なのは側につくか・・・

よし！謎の男として登場しようかな

「お兄ちゃん・・・さっき男の子がでっかい動物に襲われている夢
を見たんだけど・・・」

え？俺の妹って魔力あるのか？

「へえ 俺も見たよ」

「えっ？お兄ちゃんも見たの！？」

「ああ」

「へえ そうなんだあ ……何か隠してない？」

！？っ 何故隠してるのがバレタ！？

「チーズケーキなら戸棚に……」

「いや……お兄ちゃん？そういうことじゃないよね？」

完全にバレテル……どうしよう

1 素直に白状する

2 嘘をつく

3 叩きのめす

……3は駄目だろう！？

即警察行きじゃねーか

よし！2だな！

「いやね 何も隠してないよ？」

「汗だらだらだよ？お兄ちゃん？」

・・・言い逃れできねえ

「じゃあ俺はジヨギング行つて来る！じゃあなっ！」

「ちよっ お兄ちゃん！？待って!？」

よし 逃げれた！

・・・どうやって家に帰ろう

『素直に言えばいいんですよ マスター』

「水都に危険な事はさせたくないんだよ！」

『いや・・・マスター？言わなかったら余計に危険な事になるk』
妹の為ならなんでもやる!」・・・』

『じゃあマスター 本当の事を話に行きましょうね』

「しまったっ！」

とりあえず家の前についたわけだが

・・・よし決心はついた！

「実は俺 魔法使いなんだ」

「すごいっ！やっぱおにいちゃんは何んでもできるんだね！」

「いや・・・なんでもできるわけじゃないんだが・・・」

妹は俺がなんでもできると勘違いしている

第四話 デバ・・・イス？（後書き）

・・・ん？

あいかわらずの駄文だ・・・

第五話 原作開始（前書き）

なんだろう ペースが上がってきた

ちよつと次の回から原作介入なので今すぐアニメ見直してきます

第五話 原作開始

やあ柴崎神治だ

今妹に魔法で何ができるのか？と聞かれている
正直に言ってしまうと 1回しか使ったことがない

「お兄ちゃん、魔法って何ができるの？」
・・・どうしよう

「空とか飛べるようになるんだよー」
正直に答えた

「いいなー お兄ちゃん 私も魔法使える？」
リンカーコアがないとなあ・・・

『使えますよ』と氷霧
「えっ？」

まじで？リンカーコアあるの？

「本当！？あれ？今の声ってどこから・・・？」

『ここですよ』

と俺のペンダントが光る

「ペンダントが喋ってる！？」

とここで俺が口を開く

「ああ これはデバイスという補助具なんだ」

「デバイスって何？」

「えっと・・・つまりだな 魔法を使いやすくする道具だ」

「へええー・・・私にも頂戴！」

・・・どうしよう

神にもらったから無理という訳にも行かないし

第一ここで水都も原作に介入してしまうと

他の転生者に水都が転生者と勘違いされてしまう・・・どうにか

しないと

俺の妹が転生者に汚される！どうにかしないとな・・・

突然頭に頭痛が走る

《ようよう 久しぶりだな》

こんなときにめんどくさいやつが出てきやがった

（何のようだ？神、俺は妹がデバイスをほしがっててな、
どうにかしないとイケないんだ さっさと帰れ）

《帰れとはひどいな お前の妹にデバイスを渡しに来たのに》

（すいません 神様 ありがとうございます）

《態度変わりすぎだぞ お前》

《まあとりあえず妹の服自体をデバイスにするからな》

（えっ？）

と思ったその時

水都が着ていた白いワンピースが光り そして・・・

『始めまして マイマスター』

「えっ？えっえ？何これえええええ！？」

完全に水都が混乱していた

「えつとだな・・・それがデバイスになった」

「えっ？どういうこと？」

そうだな・・・

「不思議な現象が起こり なぜか デバイスになった それだけだ
セットアップって言うて見た「セットアップ！」」

起動コード無しで・・・だ・・・と？
魔力量結構多いのかな？

あれ・・・？まったく姿が変わってないぞ？

「お兄ちゃん、これでいいの？白のワンピースから姿変わってないんだけど・・・」

「お兄ちゃんにはまったくわかりません」と俺

まあ！ワンピース姿が可愛いからいいけど！

まあそんな会話してる時に、なのはが魔法少女になってたんだけどね

あと良い知らせなのかわからんが 【今日】【転校生】が来た

第五話 原作開始（後書き）

むう・・・？

バトル回が近づいてきた・・・どうしよう・・・

戦闘描写はむずかしいけどがんばりますね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0037ba/>

魔法少女リリカルなのは～転生者達の戦い～

2011年12月31日17時52分発行